

土木学会名誉員推挙者報告

工学士 福留 並 喜 君



福留並喜君は明治 37 年京都帝国大学理工科大学工学科を卒業後、北海道鉄道株式会社に入社され、大正元年京都電気鉄道株式会社工務課長に転ぜられ、大正 10 年から大阪市に入り土木部技術課長、港湾部長、土木部長を歴任され、昭和 15 年には同市技監に任ぜられ同 18 年退任されてからも大阪府および兵庫県都市計画地方審議会委員、各都市顧問のほか武智工務店社長等の要職につかれ終始土木技術の発展のため努力せられています。

土木学会にあつては昭和 9, 10 年度関西支部商議員、昭和 14 年度同支部長として支部発展のため非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられている効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学士 橋本 敬之君



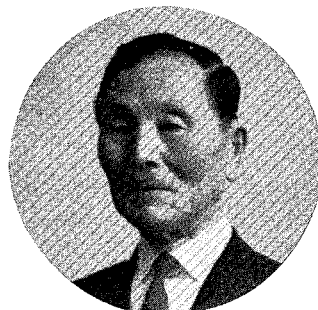
橋本敬之君は明治 39 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後、ただちに鉄道作業局に入りもつぱら鉄道建設工事に従事され、東京建設事務所長、鉄道省建設局工事課長、東京第一改良事務所長等を歴任され、退官後昭和 6 年大阪市に招かれ高速鉄道の建設に従事され、同市理事、電気局長、交通局長を歴任されました。

現在 復興建設技術協会近畿支部長、西日本建設業保証株式会社社長として活躍せられています。

土木学会にあつては昭和 5, 6 年度常議員、昭和 10, 11 年度関西支部商議員、昭和 16 年度関西支部長として学会支部発展のため非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学士 牧野 雅楽之丞君



牧野雅楽之丞君は明治 42 年東京帝国大学工学部土木工学科を卒業後ただちに内務省に入り、大正 7 年水力電気並びに道路視察のため米国に出張し、大正 13 年内務省土木試験所長、復興局道路課長並びに技術試験所長、下関土木出張所長等の要職を歴任され、昭和 11 年退官されてからは共栄会に入り、海外土木技術進出に尽力せられていましたが、昭和 14 年京都市土木局長として同市の土木事業を推進し、昭和 16 年再び共栄会の後身である海外土木興業株式会社副社長として活躍せられました。

この間万国道路会議出席のため欧州へ、メキシコ道路工事のためメキシコへ、その他仏印、タイ、マレー、北支等へ出張せられ、特に道路技術の海外進出に力を尽されました。

現在 日本道路協会名誉員、共栄興業株式会社顧問、日本道路公団高速道路技術委員会委員として活躍しておられます。

土木学会にあつては昭和 2 年から同 8 年に至る 6 年間の長きにわたり経理担当主事として当時の経済的難局を克服し、学会の運営に非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のために貢献せられた効績がまことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

工学博士 田中 豊君



田中 豊君は大正 2 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後、ただちに鉄道院に入り、大正 9 年鉄道事業研究のため 2 年間英国、ドイツおよび米国に留学、大正 12 年関東大震災後復興院に入り、首都の復興に尽力、大正 14 年には東京帝国大学兼任教授として土木工学第三講座（橋梁工学）を担当、昭和 9 年東京大学教授に専任せられ、昭和 23 年停年退職され、現在 東京大学名誉教授で 36 年の永きにわたり、わが国橋梁工学の進展に貢献されました。

また昭和 4 年には工学博士の学位を受け、昭和 7 年には首席代表としてカイロ国際鉄道会議に参列し、昭和 23 年には選ばれて日本学術会議会員、昭和 24 年には日本学士院会員となられ、昭和 32 年 11 月紫綬褒章を授与せられたのであります。

土木学会にあつては編集委員長、各種委員会委員、特に橋梁示方書委員会の委員または委員長として尽力せられ、昭和 20 年第 33 代会長として学会の運営に非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のために貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。